

春の彼岸によせて

平成三十年三月 大乘寺 長老 岡 光俊

今年の一月二月は、京都市内でもマイナス四度の日が数日続く異常気象となり、水道水凍結による水道管損傷により、その後の生活に大きな影響がでた地域も多いと聞いております。

彼岸は、そのような厳しい冬から春の訪れを告げると先祖さまからの知らせでもあります。

今回は、近年お問い合わせやご相談のなかより、お話しさせていただきます。

先日も老夫婦が寺務所にこられ、ここにお墓はあるのだけれど子孫がいらないし、自分たち夫婦だけで身寄りもなく、もしものときに、お寺さまで葬儀から納骨までお願いできないものですか。とのご相談です。

以前よりこのようなご相談はありますが、多くの場合、ご本人の準備や手続きの不備でご意志が届かず、公的機関により処理され、お骨も身元不明者共同合祀所扱いとなっていることが現状です。

また、自分の葬儀は、静かで清まったお寺からだして欲しいとの故人の遺志も伝わらないことが多いようです。

喪主のお立場から、利便性をお考になつてのことなのか、理由は解りませんが幾つかの皆さまの思い込みや誤解があるように思います。

そして家族葬の相談も増えて参りました。

次にご相談頂くのは、生前法名です。子孫の方に金銭的、精神的負担の軽減にと、自分の生きているあいだに法名を頂きたいと申しだされるかたも多くなりました。

確かに、亡くなられて一兩日のあいだに決めなければならぬこと、連絡やご案内しなければならぬこと、法律上の届け出等限りなくあるものです。

そのようななかで、一つでも決められたものがあると気持ちは大

変楽になるものです。特に法名の件は先祖代々は院号を頂いておられる、居士がよい、信士がよいなど悩まれることが多いものです。

そして最近両家墓への改装のご相談もございます。主人のほうの子孫は続いているが奥さまのほうが自分で途絶えるので、奥さまのご先祖さまも一緒にみたい。

また、その逆で奥さまの子孫は続いているが、ご主人のほうで自分で途絶えるので主人のご先祖さまも一緒にみたいというご相談です。

当寺では、お家により想いが異なりますので、よくよくお話しをお聞かせ頂き、ご安心してお任せ頂けるよう、各関係機関とも連絡を密にしてお釋迦さまの教えを元に対応させて頂いております。

また、お母さまから子育ての相談、鬱病うつびょうや引き籠こもりの相談、結婚のことまで、顔を見て、心を開いて安心してご相談頂いております。

特にお寺をご使用頂いての通夜告別式は、必ず公益社、セレマ等の葬儀専門業者が入りますが、お寺を使用することで経費の大きな削減となりますし、なによりも、静かに心置きなく故人と最後のお別れができる環境が整っております。数人の家族葬から一階、二階を使用することにより数百人の弔問まで対応できますので、ご相談下さい。

また、今年も桜の花々で埋め尽くされる鴨川半木なからぎの地に、ご先祖さまがた共々花見にお越し頂き、ありし日の故人に想いを馳せて頂き、語り合って頂ければと願わせて頂きます。